

2005年1月20日 No.76

全国一般労働組合全国協議会

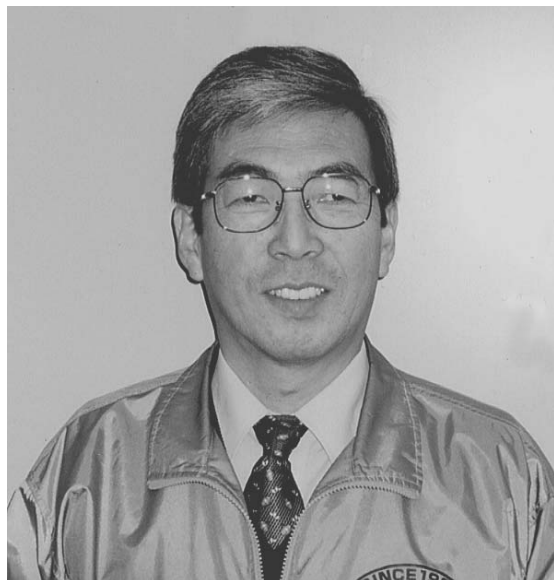
編集発行人 遠藤一郎

東京都港区新橋5-17-7 小林ビル

TEL 03-3434-1236

FAX 03-3433-0334

全国一般全国協



全国一般全国協中央執行委員長 中岡基明

05春闘を全力で闘い、共闘・組織強化 拡大・建設を大きく飛躍させよう！

世界が激しく動き始めています。アメリカ・ブッシュ大統領が再選され、イラク・フアルージャではアメリカ地上軍が市民に襲いかかり、6000人を超す人々が犠牲となったと伝えられています。2003年3月20日、一方的に開始されたイラク戦争は10万人のイラク人が犠牲になったほか、アメリカ

カ軍も12000人を超える死者がでている。日本人もすでに香田さんを含めて5人が無くなっています。この血なまぐさい世界は2005年の幕開けにも引きつがれています。小泉首相は「世界を平和に！」との人々の願いに背を向け、自衛隊のイラク占領軍への派遣を延長しまし

た。また防衛大綱の改悪・武器三原則の見直しを進め、朝鮮半島の危機をおりながら日米軍事同盟の強化、機能の大幅な強化に向けてまっすぐに進んでいます。小泉首相を担ぐ自公政権によって「戦争放棄」の憲法9条は実質破られ、日本は確実に「戦争ができる国」へと舵を切ろうとしています。一方、「平和で豊かな生活を」求める労働者・国民は景気回復という政府の宣伝に淡い期待を膨らむませ、今ひとときの辛抱をと、「痛み」を我慢してけなげに頑張ってきました。ところがひとときの息をつくこともできずに「定率減税の廃止」、「住民税の引き上げ」、「消費税の引き上げ」という増税が労働者国民に襲いかかるうとしてくるのです。

史上空前の利益を労働者の汗と血を絞りあげることによって達成したV字回復を、はしゃぐ大企業は政府に対して利潤追求のための更なる規制緩和と、公企業・公共サービス事業の払い下げを要求しています。この要求に政府は易々と道路公団や、郵政事業の民営化を急ぎ、独立行政法人化による利益第一主義・コストの削減を強要し、使い勝手のよい労働者を作り出すために労働法制の改悪を急いでいるのです。この小泉自公政権の攻撃は特に中小・零細、非正規労働者を直撃し、また公務員職場でも激しい合理化が進もうとしているのです。正規労働者は過労死・サービス残業、非正規労働者は低賃金・無権利が労働者の共通語になってしまっているのです。労働者のた

めの労働組合が必要なとき、労働組合に結集する労働者が減少するという事態も依然と進んでいます。私たち全国一般全国協は中小企業で働く労働者、パートや派遣、外国人労働者など非正規雇用労働者の生活と権利を守り、権利を拡大する闘いに全力を尽くしてきました。そして志を同じくする多くの中小労組との共闘を広げました。また闘いを大きく広げ強固な組織を建設するために様々な議論を重ねてきました。こうした闘いの積み重ねから2005年の闘いが始まります。春闘を全力でたたかい、勝利しましょう。そしてこの一年は闘い・共闘、組織強化・拡大・建設を大きく飛躍させる一年としましょう。

全労協・全日建・全港湾より

新年のあいさつ

中小労働運動の中心軸に！



藤崎全労協議長

全労協議長 藤崎 良三

これは、雇用破壊であり、生活と権利の侵害であり、労働権・生存権の侵害であります。規制緩和・企業リストラのしわ寄せは、中小・未組織、非正規労働者に集中しています。

この小泉「構造改革」・企業リストラ攻撃と対決し、新たな労働運動の飛躍を

05年あけておめでとうございませう。

今年は、中小労働運動の飛躍の年にしましょう。その中心に全国協がなることを期待するものです。

この間の労働法制の改悪と企業リストラ攻撃は、「安定した雇用」を破壊し、パート等非正規労働は1563万人から31・5%にも増大しています。そのため「貧富の差」が益々拡大しています。今や、労働者の20%が年収200万円以下、33.5%が年収300万円以下という状況に置かれています。

変革期に新たな労働運動を創造しよう

全日建運輸連帯労組中央執行委員長 長谷川 武久

2005年新春にあたり全国協の皆さんに新年のご挨拶をいたします。

日本は、自衛隊のイラク派兵延長、軍事力強化、憲法改憲や大増税、そして社会保障の削減、加えて300万円を超す失業者、更に無権利・低賃金の非正規労働者が増え、

平和運動の中心軸として活躍されることを期待します。



1.4 由倉社長宅前抗議集会

「安心して暮らせる社会」を目指そう

全日本港湾労働組合中央執行委員長 安田 憲司

新年明けましておめでとうございませう。

人為的要因を多分に含む異常気象、全く人為的な生活環境の変化など、国民生活は「災」でたゞにたゞに文字通り「災」であった2004年。2005年はそれら乗り越え「安心して暮らせる社会」へ脱皮し、中岡委員長、遠藤書記長はじめ仲間の皆さん共々大好物なコップを干して、2005年の文字は「杯」と命名したいものです。

年末の発表では組織率19・2%と前年より22万人減少し、「恐竜の道を辿る」と警鐘を乱打されるほど危機が深刻になってきています。グローバル化が進む日本社会は、産業構造や就業構造の大変化が非正規労働者の拡大や「ニート」と言われる若年失業を生み出す等、働く労働者への犠牲を一層拡大させてきており、今日ほど従来の組織と運動を克服した新しい労働組合・労働運動を求めている時はありません。

3年前に新たな労働運動を目指して出発した、三単産の共闘を注目し期待している仲間は今も多くなっています。今年も三単産の運動強化に邁進しますの一年のご協力を訴えて新年の挨拶とします。

任せでは国民生活とりわけ中小労働者の生活は破綻するでしょう。私達は世に言う「勝ち組・負け組」を作ること許すことはできません。私達は、労働組合に結集することに誇りを持ち、日本の文化と生き様としての60年の歩みを振り返りながら2005年を「安心して暮らせる社会」に転換しようではありませんか。

ある人が「車のハンドルには遊びがある。生活にも必要だ」と言う。今を生きる私達のあり方を言い表す一つの視点ではないでしょうか。

全労協春闘討論集会100名の結集で開催

生活できる賃金、非正規労働者の権利拡大 均等待遇をめざし05春闘に勝利を！

例年より1ヶ月早く、12月18日、全労協春闘討論集会が交通ビルホールで開催された。集会の前段で「辺野古の闘いの記録」ビデオを上映。藤崎議長の挨拶に続き、第1部として、中岡事務局長からの方針提起、各単産からの決意表明が行なわれた。全国一般全国協からは平賀副委員長が、高速道路公団の民営化と称し、ハイウェイ共闘に結集する800人の労働者に35%の賃金引下げと20%強の人員削減が要請されている生々しい実態の報告の上に、怒りを貧者の行進として、公団や財務省にぶつけ、今春闘ではストライキをかけて闘う決意が述べられた。

第2部では木下武男昭和女子大教授の記念講演が行なわれた。年収200万円時代に向け、「底辺に向かう競争」となっており、生存権を掛けた闘いが必要に

中小労組政策ネットワーク 第6回定期総会開催

中小・非正規労働者の組織化運動の前進目指しリレー討論

12月11日、上野区民館で中小労組政策ネットワーク第6回定期総会が開かれた。活動経過報告、組織強化とネットワークの拡充を目指す活動方針、決算・予算が承認・決定され、新役員を選出した。全労協事務局長就任に伴い中岡共同代表が辞任、全国協遠藤書記長が代わって共同代表に就任した。田宮(全統一委員長)、中村(北関東ネット)共同代表はそのまま。引き続き、「中小・非正規労働者の組織化運動の前進

降格・解雇撤回 闘争に勝利

自主連帯多摩川病院労組

04年8月23日川崎地裁において、私達労組は全面勝利を勝ち取ることが出来ました。病院側は不服として控訴しましたが棄却され、裁判長の職権により和解勧告が出されました。職場復帰は果たせませんでした。04年12月28日、2年余の闘いが終結しました。皆様のご支援に感謝致します。ありがとうございます。

700名の結集で徳島駅前騒然 駅前一周デモ

大塚闘争支援決起集会大成功!! 決戦の1年火蓋を切る

大塚製菓解雇撤回闘争の勝利を目指し、年も押し詰まった12月17日に徳島駅前で決起集会が開かれた。大塚製菓の本拠地徳島市で、大塚闘争支援する会(徳島地区労を中心に県下の地区労が参加して構成)と首都圏支える会、大阪ユニオンネットワークが共催して取組んだ。徳島地区労議長、事務局長を中心に精神的な県下一斉のオルグが成功し、徳島駅前の小さな広場は人であふれかえり、駅前を一周するデモはまるで駅前を占拠したような雰囲気。なんとしても大塚闘争勝利を勝ち取ろうとする熱気に包まれていた。



大塚闘争徳島駅前大集会

1月4日

3 争議新春行動を貫徹 今年こそ勝利を！



徳島、栃木、神奈川、東京から化学産業複数組合会議、全日建運輸連帯、全統一や全国一般の仲間が1月4日早朝8時、大塚本社前に結集。

会社の仕事始めに向け、解雇撤回、不当労働行為謝罪を要求する要請行動を行った。会社は新年要請行動を予測していなかったようで、シャッターを慌てて下し、社員を動員（いつものガードマンは現れず）対応した。

新年挨拶を本社内で行なっている樋口社長に向け、怒りのシュプレヒコールをぶつけた。

続いて、月島にあるIH Iの下請会社「郡司」社長宅（本社と一緒、マンションの一室）に向け一方的賃金切り下げ、組合つぶしを許さない申し入れ・要請行動を行なった。社長も専務も居留守を使い申し入れを受け取るうともしないので、マンション前で訴えを行なっ

た。地区の警察も来て物々しい雰囲気になったが、マンションの窓から手を振っ

て応援してくれる人もあって、行動は成功裡に貫徹された。
次は、高松宮邸の正面にある由倉工業社長宅へ要請行動。周辺にビラ撒きを行ない、申入書を社長宅へ手渡し、その後の情宣活動を行なった。

晴天に恵まれ、汗ばむような中、一連の行動を元気に終了。今年一年の健闘を誓い合った。

訪問介護の現場 その1

介護労働組合ケアリング支部 上村 富美子



ならない現状である。ではなぜ、登録ヘルパーが次から次へと辞めていくのかと考えると、大まかに次のとおりである。

私は訪問介護事業所のサービス提供責任者として働いている。そこでの現状から労働組合の必要性を感じ、介護労働組合を作った。まずは現状の報告をしたい。訪問介護の現場はほとんど直行直帰の非常勤ヘルパーの実践が頼りである。しかし、その登録ヘルパーが長続きせず辞めてしまう。そのため、次から次にヘルパーを入れ担当をつけなければ

- ①収入が不安定である。（入院、キャンセル、プランの変更等により、サービスがない場合は収入にならない）
 - ②時間のわりに賃金が低い。（1ケア〇〇〇〇円という換算であるので移動時間が長い場合はわりにあわない。交通費込みの給与である）
 - ③就職してすぐに収入が増えない。（担当利用者をすぐには増やせない）
- 以上の理由から登録ヘル

パーの収入だけでなく生計を立てるには困難で他職種に変わっていくヘルパーが多いのである。
サービス提供責任者としては安定したサービスのため、ヘルパーの指導、シフトの考慮を行っているつもりであるが、ヘルパーが辞めたあとのシフトの穴埋めに毎日現場サービスを任されている。ヘルパーが次から次へと辞めていく現状を「賽の河原に石を積み思い」に対応している。



春闘、組織化に活用しよう！

『05春闘パンフ』
発行/全労協 B5版28ページ 200円

『ハンドブック 非正規雇用者Q&A』
発行/全国一般全国協 B5版36ページ 300円

* 申込は全国協本部へ